

砂谷(株)・(株)久保アグリファームの経営状況

1. 酪農経営の現状（規模・生産・出荷の現状）

(株)久保アグリファーム部門

- 搾乳頭数 50 頭、育成牛 30 頭
- 草地面積 12 ヘクタール その他（山林・敷地）30 ヘクタール
- 生乳生産量 350 トン/年間
- 粗飼料自給率 現物換算 80% （栄養評価換算ではない）
- 生乳は牧場敷地内にある砂谷(株)（乳業メーカー）と自社の加工施設“アルトピアーノ”へ出荷
- 当牧場だけの生乳を使用した“久保正彦の低温殺菌牛乳”がある。主にケーキ屋さん等に引き合いがある。300 リッター/日量

砂谷(株) 部門

- 生乳処理量 5.5 トン/日量
- 年商 5.5 億
- 従業員数 23 名
- 販売店数 45 店舗
- 6 戸酪農家の生乳を集荷
- 生・処・販一体となった取り組みが特徴。（創業者理念に基づく）自ら作り、自ら販売することが農家の自立との考えによる。
- 宅配が中心（95%）、一部量販（5%）
- 宅配顧客数 広島市内中心 2 万軒

2. 収益拡大のために進めている独自の取り組み

- 6 次化事業を活用したジェラート・ソフトクリーム加工販売施設を平成 23 年 4 月にオープン。昨年度来場者数 7 万人
- 平成 28 年にチーズ生産とピザのお店をオープンさせる予定
- 自家牧草の生産にこだわり、酪農の理念・哲学を来場者に発信
- “消費者交流こそが酪農の発展の原点”との思いの基、体験学習の取り組みを通して酪農の理解醸成と消費拡大に取り組んでいる。

3. 経営安定化・収益拡大のために解決すべき課題

(株)久保アグリファーム部門

- 自給飼料の向上
- 来場者の拡大
- 濃厚飼料中心酪農から牧草をお乳に変える酪農へ
ホルスタインからブリティッシュフリージャン種へ
- 山林を草地に造成させる場合、県条例により費用の負担が大きい。(調整池等) 特区の制定があっても良い。

砂谷(株)部門

- 宅配件数の維持のために年間約 700 万円のセールス費用を使用
- 今後、顧客管理データ活用、既存顧客への牛乳以外の乳製品の売り込みの強化を図る必要がある。
- 現在マスコミ等で訪問販売法の見直しが議論されているが、宅配業者にとっては厳しい法律となる。
- 10%消費税導入時、牛乳・乳製品軽減税率適用を望む。

4. 生乳・乳製品の生産・流通に関する規制・制度の課題、意見

- 「生乳取引基準の見直し」、「3.5%」自主基準の見直し
- 粗飼料中心の牛乳では、うま味・コクある味に影響が出ると思うが、生産者の顔が見え安心安全が担保されれば消費者も納得できると考えられる。